

バラ(花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用 機構 分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	べ と 病	灰 色 か び 病	苗 立 枯 病	黒 星 病	さ び 病	う ど ん こ 病	炭 疽 病	斑 点 病	ゆ 合 促 進
ハーモメイト溶	NC		1	-		◎				◎			
ハツパ乳	NC		-	-						◎			
クムラス	M2		-	-						◎			
アグロケア水	BM2		*c	-						◎			
インプレッションクリ ア	BM2		*c	-						◎			
トップジンM水㊟	1		-	5				◎		◎			
トップジンMペースト	1		*b	5									◎
ベンレート水㊿	1		-	6				◎		◎			
バレード20FL	7		*a	3				◎		◎			
アンビルFL	3		*a	7						◎			
サブロール乳	3		*d	5				◎		◎			
サルバトーレME	3		*a	7				◎		◎			
セーフガード乳	3		*a	5				◎		◎			
トリフミン水	3		*a	5						◎			
マネージ乳	3		*a	6				◎		◎			
ラリー乳	3		*a	5				◎		◎			
ルビゲン水	3		-	6						◎			
フルピカFL	9		*a	5		◎		◎		◎			
ポリオキシシンAL乳	19		*a	8						◎			
サンヨール	M1		*d	8		◎		◎		◎			
ヨネボン	M1		-	6						◎			
エムダイファー水	M3		*a	8	◎	◎			◎		◎		
ジマンダイセン水	M3		-	8	◎	◎		◎	◎		◎		
オーソサイド水80	M4		-	8			◎	◎					
ダコニール1000	M5		*e	6				◎		◎		◎	
ラビライト水	1・M3		-	5				◎		◎			
カスミンボルドー	24・M1		*a	6						◎			

㊟：チオファネートメチル含有剤 ㊿：ベノミル含有剤 ㊿を使用した場合には同じ作での㊿は使用しないこと。その逆も同様（種子への処理および塗布処理を除く、詳細はP.856 参照）。

*a:発病初期 *b:剪定整枝時、病患部削り取り直後及び病枝切除後
*c:発病前～発病初期 *d:発生初期 *e:発病前～発病初期

バラ (花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	アザミウマ類	アブラムシ類	コナジラミ類	チュウレンジハバチ	ゴマダラカミキリ	コガネムシ類	フラーバラゾウムシ	ハダニ類
コロマイト水	6		*a	2								◎
スパイデックス	-		*a	-								施
スパイデックスバイタル	-		*a	-								施
ハッパ乳	-		-	-								◎
オルトラン液	1B		*a	5		◎		◎				
サイアノックス乳	1B		-	6		◎						
ジェイエース溶	1B		*a	5	◎	◎						
ジェネレート溶	1B		*a	5	◎	◎						
スミチオン乳	1B		-	6		◎					◎	
ペンタック水	2A		-	-								施
テルスターFL	3A	劇	-	3								◎
マブリック水20	3A	劇	*a	2		◎						◎
ロビンフッド	3A		-	6					◎			
アドマイヤー1粒	4A		*b	5		◎						
ダントツ溶	4A		*a	4	◎					灌		
ベストガード溶	4A		*a	4	ミ	◎	◎					
マツグリーン液2	4A		*a	5				◎				
カスケード乳	15		*a	3	ミ							◎
マイトクリーン	21A		*a	1								施
ウララ50D F	29		*a	6		◎						
オレート液	-		*c	-		◎						
サンヨール	-		*a	8		◎		◎				◎

*a:発生初期 *b:生育期 *c:発生初期～収穫前日まで
ミ:ミカンキイロアザミウマ 施:施設栽培 灌:株元灌注

バラ (花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
灰色かび病	生育期	1. 施設では過湿に注意する。 2. 老化した花や罹病花等を除去する。 3. 次の薬剤のいずれかを散布する。 - ハーモメイト水溶剤 800倍 - ゲッター水和剤㊟●* 1000倍 - ジマンダイセン水和剤 400～600倍 - フルピカフロアブル 2000～3000倍	●耐性菌を生じるおそれがあるので連用しない。 *花き類・観葉植物での登録
黒星病	生育期	・発生前から次の薬剤のいずれかを散布する。 - ダコニール1000 (FL) 1000倍 - トップジンM水和剤㊟● 1500～2000倍 - フルピカフロアブル 2000～3000倍 - ベンレート水和剤㊟● 2000～3000倍 - マネーヅ乳剤● 500～1000倍	露地栽培で春と秋に発生しやすい。 ●耐性菌を生じやすいので連用しない。
さび病	生育期	・発生を見たら次の薬剤を散布する。 ジマンダイセン水和剤 400～600倍	初秋に発生が多い。
うどんこ病	生育期	・発生初期から次の薬剤のいずれかを散布する。 - ダコニール1000 (FL) 1000倍 - ポリオキシシンAL乳剤 500～1000倍 - パンチョTF顆粒水和剤●* 2000倍 - フルピカフロアブル 2000～3000倍	春季及び秋季など、昼夜の温度較差が大きく、かつ夜間の湿度の高いときにやすい。 ●耐性菌を生じるおそれがあるので連用しない。 *花き類・観葉植物での登録
根頭がんしゅ病	定植前	1. 接木部分や地際に傷をつけない。 2. 次のいずれかで土壌消毒する。 - ガスタード微粒剤* - バスアミド微粒剤* いずれも20～30kg/10a	*花き類・観葉植物での登録

バラ(花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
アブラムシ類	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 - アドマイヤーフロアブル＊ 2000倍 - オルトラン水和剤＊ 1000～1500倍 - ベストガード水溶剤 1000～2000倍	バラは薬害がでやすいので、高温時や多湿時の散布はさける。 ＊花き類・観葉植物での登録
ミカンキイロアザミウマ	生育期	・発生初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 - カスケード乳剤 2000倍 - ベストガード水溶剤 1000倍 - モスピラン顆粒水溶剤[㊦] 2000倍	[㊦]花き類・観葉植物のアザミウマ類での登録
チュウレンジハバチ	4～5月	1. 施設の側面および妻面に防虫ネットを張り、成虫の侵入を防ぐ。 2. 発生を見たら次の薬剤を散布する。 サンヨール 500倍	幼虫ははじめ葉に群生しているので捕殺する。
ケムシ類	生育期	・施設の側面および妻面に防虫ネットを張り、成虫の侵入を防ぐ。	ケムシ類とは、ガの幼虫で、一見して長い毛やトゲが全面にあるもの。
ネコブセンチュウ		・土壌消毒をする(土壌消毒の項参照)。	
ハダニ類	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 - カスケード乳剤 1000倍 - コロマイト水和剤 2000倍 - ダニトロンフロアブル＊ 1000～2000倍 - テルスターフロアブル 4000倍 - ペンタック水和剤[㊦] 1000～1500倍 - マブリック水和剤20 2000倍	薬剤抵抗性がつきやすいので、同一薬剤の連用をさけ、数種類の薬剤を選びローテーション散布を行う。 ＊花き類・観葉植物での登録 [㊦]施設栽培での登録

バ

ラ